

【講評文】 8月12日（金） 17校目

「イチイから咲く青い薔薇」 中津高校

「イチイ」の花言葉は「死」。そして「青い薔薇」の花言葉は「神の祝福」。「死」から生まれる「神の祝福」…。観劇する前からこの意味深い題名に興味を抱きました。

「死神」は、主に神話の世界に登場する神で、できることなら近づきたくない存在として認識されています。「本当にしたいこと」に目をつぶり、「本当の自分」から目を背けて日々を生きていた主人公は、近々「死」が訪れると判断された人々の命の糸を切る、という役目を死神から強引に任されます。一見唐突に思える設定ですが、「死」を最終決定する力を与えられた主人公が「死」から「生」を見つめ直していくことで生まれる心の変化が上手く表現されており、違和感なく鑑賞することができました。

危篤状態に陥った娘とその母親との一件、個性的な作家とのやり取りなど、主人公が「死」をめぐるいろいろな人と関わっていくなかで、命の糸を切る行為に様々な感情が込められていきます。最愛の妹の命の糸を切るシーンでは、喪失感や感謝の気持ちがないまぜになった複雑な心境が丁寧に表現されていて、とても印象的でした。他のキャストの細かい動きも自然でよかったです。結果的に、主人公が自分らしく生きていくための後押しをしてくれた死神の衣装が、「神の祝福」を意味する青い薔薇をイメージさせるものであったことも特筆しておきたいです。

舞台装置では、青い薔薇をイメージさせる箱が4つありました。4本の青い薔薇は「死ぬまで変わらない思い」という花言葉です。自らの意志で再び絵を描き始めた主人公が描き上げた青い薔薇と合わせると5本。5本の青い薔薇は「出会えたことへの喜び」という花言葉となっています。ラストシーンで掲げられた完成した青い薔薇の絵は効果的な照明の中でひととき輝いて見えました。主人公が、妹が亡くなった悲しみを乗り越え、前を向いて自分の「生」を生きていく力強さが感じられるシーンでした。

惰性の中で生きていた主人公は、後悔のない人生を送るには、自分の思いを言葉にして伝えること、自分の本当の気持ちから逃げずに向き合うことで、自分らしく生きることができるといふことに気が付きます。この主人公の心の変化を通じて、私たちは「死」と正面から向き合った時に初めて後悔しない「生」のありように気づくのだというメッセージを確かに受け取ることができました。

中津高校のみなさん、上演お疲れさまでした。

（文責 長良高校 3年 ひま スア 2年 そら ）